

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
106	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Determinants of exaggerated difference in morning and evening blood pressure measured by self-measured blood pressure monitoring in medicated hypertensive patients: Jichi Morning Hypertension Research (J-MORE) Study./            降圧薬服用中高血圧症例の自己測定血圧の朝夕差の規程因子：J-MORE 研究</p>	
執筆者	
Ishikawa J, Kario K, Hoshide S, Eguchi K, Morinari M, Kaneda R, Umeda Y, Ishikawa S, Kuroda T, Hojo Y, Shimada K; J-MORE Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Hypertens. 2005; 18(7): 958-65.	
キーワード	
自己測定血圧、高血圧、早朝血圧上昇	
要旨	
<p>&lt;背景&gt;携帯型自動血圧測定器により判明する早朝血圧上昇は脳卒中のリスクになることがわれわれの研究で判明した。本研究では脳卒中の想定リスクである自己測定血圧の朝夕差(朝夕差)の規程因子を降圧薬服用中の症例を対象に検討した。</p> <p>&lt;方法&gt;969例の降圧薬服用中外来症例において朝夕の自己測定血圧を得た。</p> <p>&lt;結果&gt;朝夕差は-37.3から53.3 mm Hgであった(平均 7.9 mm Hg)。4分位最高値群(&gt;15.0 mm Hg)はその他の群に比べてより高齢で(68.0+/-9.8歳 vs 66.2+/-10.3歳, P=.01)、男性が多く(48.3% vs 39.9%, P=.02)、飲酒習慣があり(34.7% v 26.0%, P=.01)、β遮断薬使用者が多かった(26.9% v 19.9%, P=.03)が、しかし朝夕の平均血圧には差がなかった。多変量ロジット解析では朝夕差 4分位最高値群の規程因子は高齢(10歳高齢につきオッズ比は[OR] 1.21, P=.01, 95%信頼区間(95%CI) 1.04-1.42)、飲酒習慣(OR 1.51, P=.04, 95%CI 1.01-2.26)、とβ遮断薬使用(OR 1.50, P=.02, 95% CI 1.06-2.12)であった。</p> <p>&lt;結論&gt;高齢、飲酒習慣、β遮断薬使用が降圧薬服用中の高血圧患者において朝夕差高値が有意な規程因子であった。</p>	